



合には、第3指示符を用いるほか、行間が狭い場合に、次の行に①④の点を用いてアンダーラインを表すことができる。指示の場合には、強調とは異なって、省略することはできない。

[修正後]

(3) アンダーライン・傍線・傍点など

墨字原文には、下線・傍線、下点・傍点、角カッコなどを付したり、ゴシック体などを用いて、その部分を強調している場合が多い。点字では、字の大きさや字体を変えることはできないので、点訳の目的と必要に応じて、これらの強調表現を省略したり、カギ類や指示符類を用いて表したりするなどの配慮が必要である。

なお、試験問題などで、強調ではなく、指示を表すためにこれらの表現がなされている場合には、第3指示符を用いる。指示の場合には、強調とは異なって、省略することはできない。